

新規事業評価調書

【ほ場整備事業】

南あわじ市 ようぎ 養宜地区

農政環境部農林水産局
農地整備課

事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 石井龍太郎 (基盤整備班主幹 神木哲生)	内線	4012 (4014)
------	---------------------	---------------------	--------------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	地区名	総事業費	19.8億円																								
		農地整備事業（経営体育成型）	養宜地区	(内用地補償費)	(0.3億円)																								
所在地				着工予定年度	完成予定年度																								
南あわじ市八木入田、八木養宜中、八木養宜上				平成28年度	平成36年度																								
事業目的			事業内容																										
<p>本地区は、南あわじ市北東部に位置しており、専業農家を中心に水稲、タマネギ・レタスの三毛作など農地を高度に利用した農業が展開されている。</p> <p>ほ場整備及び用水路のパイプライン化により、農作業の省力化を実現し、水稲及び野菜の生産コスト低減並びに野菜の生産拡大を図る。</p>			<p>【計画の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区画整理 58.9ha 単独かんがい用水路工(パイプライン)40.6ha 事業主体 兵庫県 <p>[負担割合 国：50.0%、 県：27.5% 市：12.5%、 地元：10.0%]</p>																										
評価視点	評価結果の説明																												
(1) 必要性	<p>本地区は、営農意欲の高い専業農家が多数いるが、地区の北西部は区画が小さく、不整形なうえに、農道が狭いことから、大型農業機械の導入が進んでいない。</p> <p>また地区南東部は過去にほ場整備を行っているが、用水路が老朽化し、水管理に多大な労力を要している。そこで、農業機械の大型化による農作業の軽減や水管理の省力化を図るための条件整備が必要である。</p>																												
(2) 有効性・効率性	<p>① 費用便益比 $B/C=1.47$</p> <p>② 農業機械の導入による労働時間の短縮と担い手の育成</p> <p>10a 当たりの労働時間</p> <table border="1"> <tr> <td>タマネギ</td> <td>現況 225hr</td> <td>→計画 141.8hr</td> <td>(37.0%減)</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>現況 191hr</td> <td>→計画 150.9hr</td> <td>(21.0%減)</td> </tr> <tr> <td>担い手（認定農業者）数</td> <td>現況 32 経営体</td> <td>→計画 53 経営体</td> <td>(65.6%増)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(30.5ha)</td> <td>(50.8ha)</td> <td></td> </tr> </table> <p>③ 省力化による野菜等の作付面積の増加と収量増</p> <table border="1"> <tr> <td>タマネギ</td> <td>現況 31.1ha</td> <td>→計画 35.5ha (4.4ha 増)</td> <td>年間増収量 238 t</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>現況 44.8ha</td> <td>→計画 53.2ha (8.4ha 増)</td> <td>年間増収量 214 t</td> </tr> </table> <p>④ 地元集落では、多くの農家がほ場整備を契機にタマネギやレタスの増産に取り組もうとする機運が高まっており、同意率100%で、地元協力体制は整っている。</p>					タマネギ	現況 225hr	→計画 141.8hr	(37.0%減)	レタス	現況 191hr	→計画 150.9hr	(21.0%減)	担い手（認定農業者）数	現況 32 経営体	→計画 53 経営体	(65.6%増)		(30.5ha)	(50.8ha)		タマネギ	現況 31.1ha	→計画 35.5ha (4.4ha 増)	年間増収量 238 t	レタス	現況 44.8ha	→計画 53.2ha (8.4ha 増)	年間増収量 214 t
タマネギ	現況 225hr	→計画 141.8hr	(37.0%減)																										
レタス	現況 191hr	→計画 150.9hr	(21.0%減)																										
担い手（認定農業者）数	現況 32 経営体	→計画 53 経営体	(65.6%増)																										
	(30.5ha)	(50.8ha)																											
タマネギ	現況 31.1ha	→計画 35.5ha (4.4ha 増)	年間増収量 238 t																										
レタス	現況 44.8ha	→計画 53.2ha (8.4ha 増)	年間増収量 214 t																										
(3) 環境適合性	<p>専門家による現地調査により、ほ場等に生息する水棲動植物が確認されている。このため、工事中は地区外に待避させ、排水路の一部によどみなどを作り、工事後に戻すなどして棲息環境を確保する</p>																												
(4) 優先性	<p>① 本地区に隣接する淡路島内の農畜水産物の需要拡大と農畜水産業振興の拠点として開設した「あわじ島まるごと食の拠点施設（美菜恋来屋(みなこいこいや)」の駐車場は現在、農地を一時転用しており、早期に本事業で用地創設する必要がある。</p> <p>② 地区内を通る西淡三原インターチェンジへのアクセス道路である市道大榎列(おおえなみ)古長田道路改良等も一体的に施行する予定で、早期の実施が求められる。</p>																												
【事後評価】 対象・対象外	<p>本件と同目的のほ場整備が南あわじ市内で同様の規模及び同時期に事後評価を実施する予定であるため、本件については事後評価の対象外とする。</p>																												

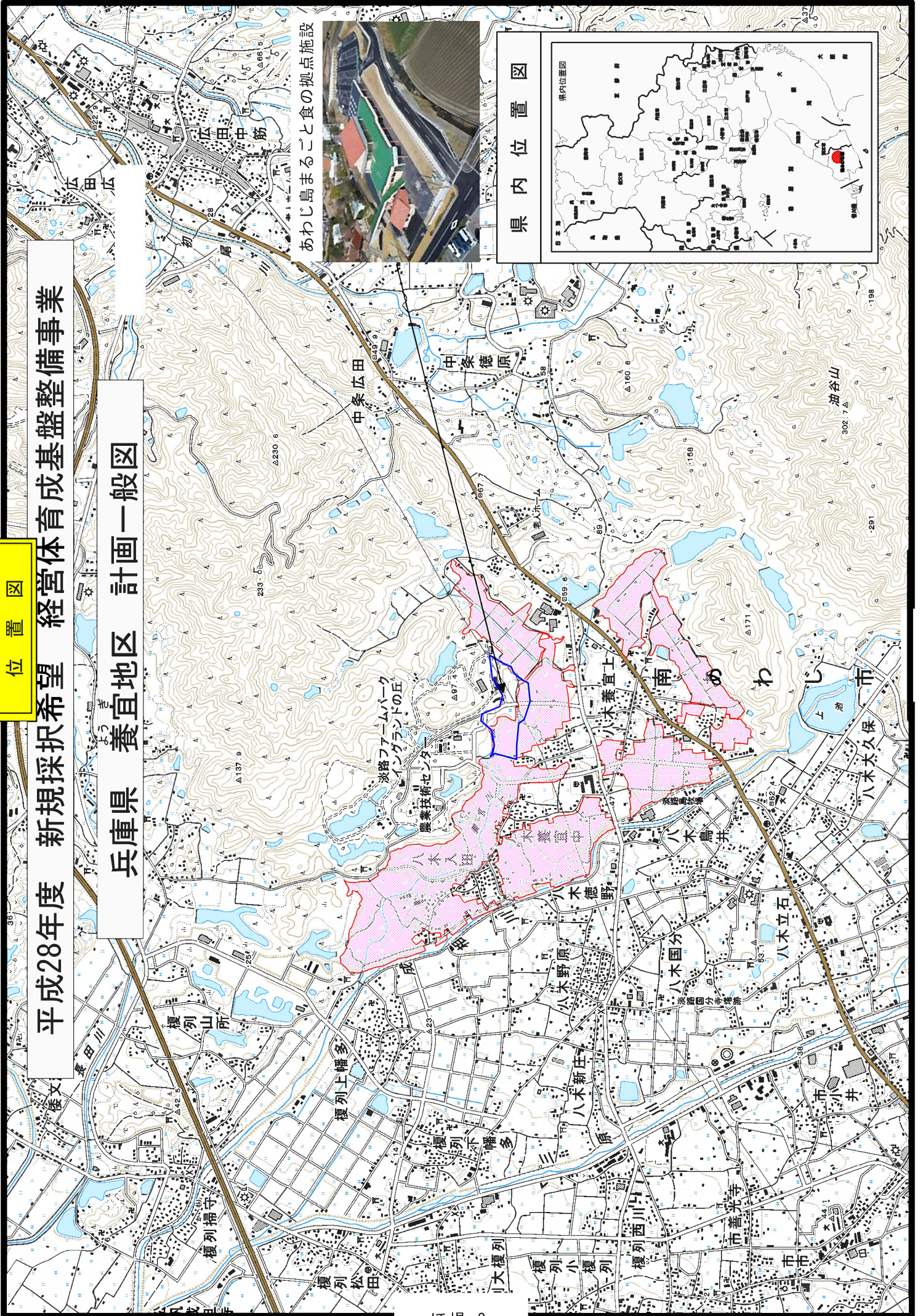
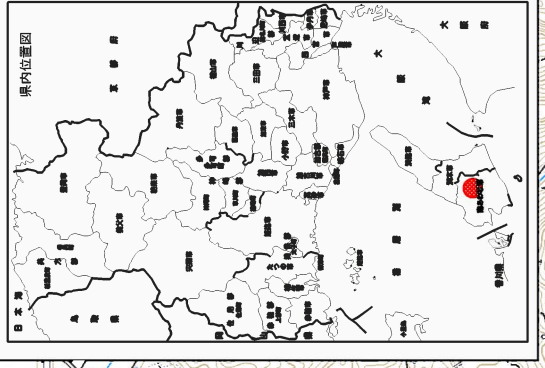
平成28年度 新規採択希望 経営体育成基盤整備事業

兵庫県 養宜地区 計画一般図

あわじ島まるごと食の拠点施設



県内位置図



養宜地区 計画平面図



小区画で不整形なほ場



現況道路（幅員約2.0m）



老朽化した用水路

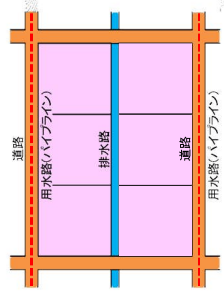


タマネギの作付状況

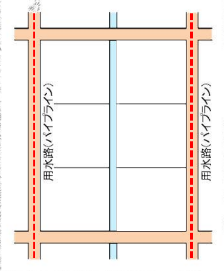


レタスの収穫状況

ほ場整備区域



用水路工区域



あわじ島まるごと
食の拠点施設



確認された希少種

メダカ 兵庫県版レッドデータブック2003



「要注目種」

コガムシ 環境省第4次レッドリスト2012



「情報不足」

兵庫県版レッドデータブック2012 記録無
近畿レッドデータブック 記録無

ヒメミソハギ 近畿レッドデータブック



「絶滅危惧種C」

兵庫県版レッドデータブック2010 記録無

凡	色	種
■	紫	ほ場整備
■	黄	用水路施設整備
■	緑	公共用地
■	青	運路
■	赤	用水路
■	白	排水路

1. スケジュール

工種	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
実施設計	■								
区画整理工			■						
用水路(パイプライン)		■							
その他(換地)	■								

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

①便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
ほ場整備	営農経費の節減	農地の拡大や道路の整備によって、農業機械の小型から中型化による労働時間の短縮や機械の共同利用などによる個別所有機械の処分に伴う機械経費の節減
	作物の生産効果	用水路と排水路の分離により田畑輪換が容易になり、水稻等の収益性の低い作物からタマネギ・レタス等の収益性の高い作物へ作付けが転換されること、及び施設整備による適正な水管理により単収が維持される効果
	維持管理費の増大	老朽化した施設の近代的な施設への改築や施設の新設による、維持管理費の増減 (※通常は施設が新たに増えるため維持管理費が増となり、マイナス便益となる)
	耕作放棄防止	事業実施によって、労働環境が改善されると共に、担い手への農地集積が進むことによって耕作放棄が抑制される効果
	公共用地創設事務の節減	換地手法により、公共用地等を合理的かつ経済的に取得できる効果

②費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	※事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
ほ場整備	農地整備事業 (経営体育成型) 養宜地区	営農経費節減	2,532	2,679	1,924	755	1.47
		作物の生産効果	1,407				
		維持管理費の節減	△ 84				
		耕作放棄の防止	0.1				
		公共用地創設事務の節減	82				
		計	3,937				

算定に用いた資料:「新たな土地改良の効果算定マニュアル」(農林水産省農村振興局)

※ 事業費は、当該事業費+当該施設の資産価値-評価期間(49年)終了後の施設の資産価値

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時の農地や農村への被害の防止と軽減 ・ 農村の活性化 ・ 地域交通の利便性の向上 ・ 地下水の水源かん養

ほ場整備事業の効果

対象事業：農地整備事業（経営体育成型） ほ場整備 養宜地区

（１）費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
食料の安定供給の確保に関する効果	営農経費の節減 （農地の拡大や道路の整備によって、農業機械の小型から中型化による労働時間の短縮や機械の共同利用などによる個別所有機械の処分に伴う機械経費の節減）
	作物の生産効果 （用水路と排水路の分離により田畑輪換が容易になり、水稻等の収益性の低い作物からタマネギ・レタス等の収益性の高い作物へ作付けが転換されること、及び施設整備による適正な水管理により単収が維持される効果）
	維持管理費の増大 （老朽化した施設の近代的な施設への改築や施設の新設による、維持管理費の増減） ※通常は施設が新たに増えるため維持管理費が増となり、マイナス便益となる。
農業の持続的発展に関する効果	耕作放棄の防止 （事業実施によって、労働環境が改善されると共に、担い手への農地集積が進むことによって耕作放棄が抑制される効果）
農村振興に関する効果	公共用地創設事務の節減 （換地手法により、公共用地等を合理的かつ経済的に取得できる効果）

（２）費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業（工種）内容等
農業の持続的発展に関する効果	災害発生時の農地や農村への被害の防止と軽減 （農業用の用排水の分離・法勾配の改善、ほ場の湛水深の増、畦畔の強化が図られ、洪水の防止と軽減により農地・農業施設の災害を未然に防止する効果）	○ 区画整理・用排水路整備
	農村の活性化 （食の拠点施設の駐車場用地を創設することで集客に寄与し、地域農産物の需要増加により、地域の生産意欲の向上を促し、農村が活性化する効果）	○ 区画整理、公共用地創設
農村の振興に関する効果	地域交通の利便性向上 （農道の整備により安全に通行でき、また緊急自動車の通行が可能となることによる地域の利便性と安全性が向上する効果）	○ 農道の整備
多面的機能の発揮に関する効果	地下水の水源かん養 （水田が水田として利用されることで用水等の一部が地下に浸透し、地下水の涵養を促進する効果）	○ 区画整理

○印は当該事業効果の主な項目

（３）地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入田集落、八木養宜集落、八木養宜上集落から、特に若い世代が中心に長年に渡るほ場整備をなんとしても実現して欲しいと市へ強い要望が出されている。 ・ また、関連施設である直売所や体験農場などを総合的に取り組む「食の拠点施設」の駐車場用地の確保について積極的に協力している。 ・ 集落と連絡する狭小でわん曲した危険な農道を整備し、生活環境を改善したい要望が強い。
-------	--